

〈学校教育（基礎教育）分野の点検・評価〉

学校教育（基礎教育）分野については、大きく学校教育課・指導室事業と給食センター事業に分けて点検・評価しました。

I 学校教育課・指導室事業

1 教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な学校環境のもとで学習できるようにするとともに、登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等、学校の危機管理体制の確立を図ります。

項 目	1 児童生徒が安心して学べる環境を整備します。
目標・取組概要	児童生徒の学習及び生活の場として良好な環境を確保するとともに、障がいのある児童生徒にも安全でゆとりを持って学校生活が送れるよう配慮した施設整備に努めます。 ① 愛宕中学校，御所ヶ丘中学校格技場天井改修工事 ② 御所ヶ丘中学校屋内運動場改修工事実施設計業務 ③ 児童・生徒用机天板交換事業
自己評価	① 愛宕中学校，御所ヶ丘中学校格技場天井改修工事については、夏休み中に改修工事が終了し、2学期からは授業や部活動等で使用されています。 ② 御所ヶ丘中学校屋内運動場改修工事実施設計業務については、多目的トイレの設置など、障がいのある生徒にも配慮した設計を実施しました。 ③ いばらき木づかい環境整備事業費補助金（事業費の 7/10 を補助）を利用し、市内小中学校の机の天板を全てA4版対応のものに交換しました。
今後の課題と対応の方向性	市内小中学校の校舎におけるトイレ改修については、完了しましたが、屋内運動場等のトイレ改修も、大規模改修時に計画的に進める必要があります。 また、校舎の大規模改修時には、エレベーター等を設置し、障がいのある児童生徒にも、安心して学校生活が送れるよう配慮した施設整備に努めます。 さらに、大規模改修等の学習環境整備には、膨大な経費が掛かることから、補助金等を最大限に利用し、経費の削減に努めます。

項 目	2 通学路の安全点検と危機管理体制を強化します。
目標・取組概要	安全で安定した教育環境の確保のため、通学路の安全点検、災害時引渡し訓練等危機管理体制の強化を図ります。 ① 通学路の危険個所の合同点検の実施（7/11，8/8） ② 小中学校児童生徒引渡し訓練の実施（9/1）

自己評価	① 合同点検を行った危険箇所17箇所のうち14箇所については、平成29年度中に安全対策を講じました。また、未実施の3箇所のうち2箇所については、横断歩道の設置の順番待ちの状況であり、残りの1箇所についても平成30年12月までには対策が講じられる予定です。 ② 災害時の小中学校児童生徒の引渡し訓練を実施することにより、危機管理体制の再確認とともに、保護者との更なる連携強化を図ることができました。
今後の課題と対応の方向性	児童生徒が、事故や事件に巻き込まれないよう、学校での交通安全指導や防犯教育の強化を図ります。 また、警察や道路関係者と連携を密にし、安全対策を講じるとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、登下校時の防犯対策を講じていく必要があります。

〈外部の方々から頂いた意見〉

- ＊ 児童生徒の登下校時の安全確保のため、通学路となっている道路で、信号機、街灯、監視カメラ、横断歩道等の設置及び道路の拡幅や歩道の整備が求められています。（保護者）

2 学校教育プラン

〔1〕ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは、学校教育において最も基本的かつ重要なことです。児童生徒が自ら学習する喜びを実感して、学び続けることができる教育活動を行います。

学校は、学習指導要領に基づき、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために主体的に対話的な学びの場を工夫し、児童生徒の思考力、判断力、表現力を育成します。また、地域や子供の実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

項 目	1 児童生徒に確かな学力を身に付けさせます。
目標・取組概要	児童生徒が知識及び技能を習得し、それらを主体的に活用して思考力、判断力、表現力等が高めることができる授業づくりや環境整備を行います。 ① きらめきプロジェクトの推進 ② サタデー学習支援教室の実施 ③ 非常勤講師（学習支援ティーチャーなど）の配置
自己評価	① 守谷市保幼小中高一貫教育を推進していく中で、本年度は継承・継続・深化・発展をキーワードに、校種を越えた教員の協働による授業づくりや改善に努めてきました。学力の定着について

	は、茨城県学力診断テストの結果から、十分に定着してきていると考えます。				
	○ 茨城県学力診断テスト正答率の推移 (教科毎正答率の合計ポイント)				
	区分	学年	H27	H28	H29
	小学校	3年	327.4	317.5	319.5
		4年	320.2	315.4	308.5
		5年	298.2	290.1	303.5
		6年	304.5	308.9	320.3
	中学校	1年	348.9	336.6	366.4
		2年	329.4	319.9	339.5
		3年	327.8	339.7	345.5
	注) 小学校は4教科、中学校は5教科で実施				
	② 5月から翌年3月の土曜日に計30回実施しました。登録児童数は79名でした。学習に不安のある児童に対し、個別に学習支援する体制ができ、学習意欲の向上や基礎・基本の定着に効果的でした。半数近くの児童が、「授業が分かるようになった」と回答し、中でも「計算ができるようになった」と回答した児童が6割を超えました。				
	③ 学習支援ティーチャーは、小学校に25名、中学校に8名、社会人TTを小学校に1名配置し、児童生徒の生活習慣や学習習慣の確立と学力向上を図ることができました。				
	【学習支援ティーチャー配置校一覧】 大井沢小、大野小、守谷小、黒内小、御所ヶ丘小、松前台小、松ヶ丘小、守谷中、愛宕中、御所ヶ丘中、けやき台中				
	【社会人TT配置校一覧】 大野小				
今後の課題と対応の方向性	① テストの平均点から学力の向上が図れていると分析できる一方で、児童生徒一人一人の学力の個人差が課題となりました。結果を十分に分析し、更なる授業改善に取り組みます。また、個に応じた学習支援を充実させるため、放課後や長期休業、そしてサタデー学習支援教室等の個別指導の時間や機会を設けるとともに、学習支援ティーチャーや社会人TT等の人的環境の充実を図ります。				

〈外部の方々から頂いた意見〉

- * 学び合いを小中一貫で進めていることで、学習スタイルが定着し、より学習効果が向上している。(学校運営協力員)
- * 教育相談の時間を今後も設けて、分からないことはその場で解消し、達成感のある自主学習ができるようバックアップをお願いしたい。(学校運営協力員)

〔2〕ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

全教育活動において、他者と関わりを通して自己有用感に裏付けられた自尊感情（自己肯定感）を育み、児童生徒の心豊かな社会性の基礎を養います。

項 目	1 児童生徒が豊かな心を育み, 良好な人間関係が築けるようにします。																																													
目標・取組概要	学校, 家庭, 地域が一体となり児童生徒が主体的, 対話的に規範意識や道徳性を高めるとともに, 一人一人の心身の成長に応じることが出来る生徒指導や教育相談体制づくりに努めます。 ① きらめきプロジェクトの推進 ② スクールカウンセラーの配置 ③ 機動性・柔軟性のある守谷市総合教育支援センターの組織整備と支援策の充実																																													
自己評価	① 道徳教育は, きらめきプロジェクトの重点の一つとして, 各中学校区及び各校の道徳教育の充実を目指して授業改善に取り組んでいます。時には保護者も様々な形で参加しながら, 家庭や地域と連携した心の教育を推進しています。さらに, 市内の小中学校及び高校が合同で「Moriya きらめきフォーラム」を開催し, SNS によるいじめ撲滅のためのスローガンを作成し, 校内及び地域に周知し, いじめ問題に対する意識の高揚を図りました。 ② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフを生徒指導や教育相談の組織に有機的に位置付け, 教職員と連携・協働していじめや問題行動, また家庭環境などの諸問題に対応しました。3名のスクールカウンセラーの相談実績は, 述べ293人, 534回でした。 ③ 総合教育支援センターでは, 教育相談, 適応指導教室, 就学相談の3つの事業を柱に教育に係る包括的な教育支援に努めています。設立2年目を迎えた本年度は, 各事業の取組が軌道に乗りはじめ, 特にセンターが学校と専門機関をつなぐ中心的な役割を果たすことができました。 ○ 守谷市総合教育支援センターの相談実績 (述べ件数) <table><tr><td></td><td>来所相談</td><td>電話相談</td><td>訪問相談</td><td>巡回相談</td><td>合計</td></tr><tr><td>H29</td><td>353</td><td>132</td><td>122</td><td>200</td><td>807</td></tr><tr><td>H28</td><td>238</td><td>220</td><td>145</td><td>201</td><td>804</td></tr></table> ○ 不登校出現率 (%) <table><tr><td rowspan="2">区 分</td><td colspan="3">小学校</td><td colspan="3">中学校</td></tr><tr><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>守谷市</td><td>0.77</td><td>0.52</td><td>0.59</td><td>2.58</td><td>2.53</td><td>3.17</td></tr><tr><td>茨城県</td><td>0.36</td><td>0.50</td><td></td><td>2.96</td><td>3.13</td><td></td></tr></table>		来所相談	電話相談	訪問相談	巡回相談	合計	H29	353	132	122	200	807	H28	238	220	145	201	804	区 分	小学校			中学校			H27	H28	H29	H27	H28	H29	守谷市	0.77	0.52	0.59	2.58	2.53	3.17	茨城県	0.36	0.50		2.96	3.13	
	来所相談	電話相談	訪問相談	巡回相談	合計																																									
H29	353	132	122	200	807																																									
H28	238	220	145	201	804																																									
区 分	小学校			中学校																																										
	H27	H28	H29	H27	H28	H29																																								
守谷市	0.77	0.52	0.59	2.58	2.53	3.17																																								
茨城県	0.36	0.50		2.96	3.13																																									

	○ いじめ認知件数 (件)				
		小学校	中学校	合 計	解消件数 継続支援
	H29	62	23	85	56 29
	H28	36	35	71	57 14
	H27	28	15	43	32 11
今後の課題と 対応の方向性	今後も、道徳教育の充実を図りながら、教育活動全体を通じて豊かな心が育めるよう、異校種間においても一貫して多様な体験活動や交流活動を実施し、児童生徒の自己有用感を育て、自己肯定感を高めてまいります。守谷市総合教育支援センターが、さらに包括的な教育支援センターとして機能するためには、適応指導教室の教室数や相談員の人数を増やすことが課題となっています。また、支援センター相談員による家庭訪問をする等のアウトリーチ型支援を実施し、不登校児童生徒への支援の充実を図ります。				

〈外部の方々から頂いた意見〉

- * 困ったことがあればすぐに相談できる相手を作っておくことが大切である。保護者とも連携協力しながらいじめのない楽しい学校生活ができるようご指導いただきたい。(学校運営協力員)
- * 「学校が楽しい」と答える生徒の数値が高いのは、教師の努力の表れだと思う。今後も引き続き努力してもらいたい。(学校運営協力員)

〔3〕ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

近年、子供達の体力低下が著しいと言われていることから、その解決のために、「食に関する指導」や「体力づくり」を進め、健やかな児童生徒を育てます。

項 目	1 児童生徒の健やかな身体を育みます。
目標・取組概要	児童生徒が自ら自分自身の心身の健康を意識し、たくましい身体づくりをしようとする態度を育成するための、食育や運動の機会と環境の充実を図ります。 ① 食育指導の実施 ② 体力の向上

自己評価	① 食に関する指導は、栄養教諭を講師に招いての授業や給食訪問を行いました。その結果、食事のマナーや衛生面に着目する児童生徒が増えたり、栄養や食物についての知識や関心が高まったり、望ましい食習慣の定着を図ることができました。 ② 学校では、体育の学習や業間休み、体育的行事、中学校での部活動を含めた教育活動の中で積極的に運動を取り入れ、体力の向上を図ってきました。 ○ 体力テストA+Bの達成率の推移 (%) <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="3">小学校</th><th colspan="3">中学校</th></tr><tr><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr><tr><td>守谷市</td><td>52.5</td><td>53.6</td><td>54.6</td><td>62.9</td><td>60.1</td><td>65.9</td></tr><tr><td>県平均</td><td>52.9</td><td>54.5</td><td>55.9</td><td>60.1</td><td>60.7</td><td>61.9</td></tr></table>	区分	小学校			中学校			H27	H28	H29	H27	H28	H29	守谷市	52.5	53.6	54.6	62.9	60.1	65.9	県平均	52.9	54.5	55.9	60.1	60.7	61.9
区分	小学校			中学校																								
	H27	H28	H29	H27	H28	H29																						
守谷市	52.5	53.6	54.6	62.9	60.1	65.9																						
県平均	52.9	54.5	55.9	60.1	60.7	61.9																						
今後の課題と対応の方向性	児童生徒の体力向上を図るため、全教育活動の中で運動を取り入れる機会を多く設定し、今後も体力の向上を目指します。また、学校における食育指導のみならず、家庭と連携した食育指導（朝ご飯の大切さ等）についても充実を図っていきます。部活動においても、外部指導者の積極的導入や活動場所を確保し、中学生の部活動の活性化を図ります。																											

〈外部の方々から頂いた意見〉

- * 食や健康は、生涯において大切なので専門性を生かした指導をしてほしい。（学校運営協力員）
- * 体力テストの結果が素晴らしい。運動部の好成績もHPで拝見している。（学校運営協力員）

〔４〕ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

未来の創り手となる子供達には、新しい時代に対応した教育が必要です。近年顕著となってきた知識・情報・技術をめぐる加速度的な社会変化に対しても対応することができる資質や能力を高めます。

項 目	1 国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施します。
目標・取組概要	子供達が急速なグローバル化や情報化社会においても、自らの力で将来を切り開いていくために必要な外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育等の充実を図ります。 ① キャリア教育の充実 ② ALT（外国語指導助手）の活用 ③ 教職員のICT（情報通信技術）活用力の充実
自己評価	① 発達段階に応じた組織的、系統的なキャリア教育を推進しています。中学2年生は職場体験学習を行い、望ましい勤労観や職業観を育むとともに、体験報告会を通して情報活用力・表現力を

	養うことができました。 ② 平成 13 年度から全小中学校にA L Tを配置し、小学校 1 年生からA L Tによる外国語学習を実施しています。授業だけでなく日常生活においても積極的に活用し、外国語に触れる場面を多く設け、充実した活動が展開されています。インタラクティブフォーラム県大会に3名の中学生が出場、スピーチコンテストでは全国大会へ出場しました。 ○ 意識調査「A L Tと話したり活動したりすることは楽しい」と答えた小学生（抽出）の割合・・・93. 7% ○ 中学3年生で英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合 (%) <table><tr><td></td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td></tr><tr><td>守谷市</td><td>37.6</td><td>52.5</td><td>44.7</td><td>51.1</td></tr><tr><td>全 国</td><td>16.3</td><td>17.7</td><td>36.1</td><td>40.7</td></tr></table> ③ 職員研修にも注力し、タブレットや電子黒板等のI C T機器の有効な教育的活用に関する研修を実施しています。また、2名のI C T支援員の配置により、I C T機器活用の利便性が周知され、I C T機器の効果的な活用を通じた授業改善が多く見られるようになりました。各校の情報教育に係る優れた実践は、「実践事例集」としてまとめ全校に周知しました。		H26	H27	H28	H29	守谷市	37.6	52.5	44.7	51.1	全 国	16.3	17.7	36.1	40.7
	H26	H27	H28	H29												
守谷市	37.6	52.5	44.7	51.1												
全 国	16.3	17.7	36.1	40.7												
今後の課題と対応の方向性	「職場体験学習」は、望ましい職業観や勤労観を育成するのに大いに役立つ一方で、事業所確保が難しいため、商工会やライオンズクラブ等に働きかけを行い、事業所の確保に努めます。また、児童生徒の成長段階に即した一貫したキャリア教育の充実に努めます。 教員のI C T機器を使った指導力はかなり向上してきていますが、活用の仕方に教員間の差が生じています。また、小学校において外国語（英語）が高学年で教科化になることも踏まえ、I C T機器やA L Tの効果的な活用に関して、今後も、教育課程の工夫や研修の充実に努めます。															

〈外部の方々から頂いた意見〉

- * 守谷市はA L Tが常時配置されていて、外国語活動に力を入れている。世界で活躍する人材を育成するには、英語教育の充実が必要である。（学校運営協力員）
- * 情報教育は、これからの社会において必要不可欠である。I C T支援員の人数をもう少し増やして来校回数を増やしてほしい。（学校運営協力員）

〔５〕 パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって、学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。

学校は、積極的に情報を公開することで、信頼される学校づくりを進めるとともに、家庭・地域と連携し、一体となって子供達を育む教育のシステムづくりを推進します。

項 目	1 保護者や地域住民との連携が図られた学校を目指します。
目標・取組概要	学校、家庭、地域社会が一体となった教育の充実のために、地域住民とともに児童生徒を育成する開かれた学校づくりに努めます。 ① 地域社会への授業公開と積極的情報発信 ② 地域人材の教育活動における有効活用
自己評価	① 地域社会へ向けた授業公開は全校で積極的に行っており、学校公開日も設定しています。家庭や地域社会への情報発信として各学校のホームページが毎日更新され、特に保護者から高い評価を得ています。また、メールマガジン配信システムにより不審者情報等の緊急性のある情報提供や連絡などに大変役立っています。 ② 地域人材の活用については、学校単位でスクールサポーターや学校支援ボランティアが組織され、登下校の安全指導や学習のサポートにも積極的に参加してもらい、効果が上がっています。また、地域住民が学習内容に応じてゲストティーチャーとして授業を行う機会も増えています。
今後の課題と対応の方向性	スクールサポーターや学校支援ボランティア等の協力が、より効果的に活用・運営できる組織づくりを促進します。また、一人で登下校する児童生徒の安全確保が課題となっており、今後もより一層、地域住民の協力とともに児童生徒の安全確保に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見〉

- ＊ 学校だけでなく、地域や家庭が協力して子ども達の育成に当たることは大切である。必要なときは声を掛けてほしい。（保護者）
- ＊ HP による情報発信は、地域住民にとって大変有意義なものである。一方通行でなく、生徒や地域の声援や感想の書き込みが行える環境もあればよい。（学校運営協力員）

Ⅱ 給食センター事業

学校給食は、単に栄養補給にとどまらず、児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものとして、学校給食法において目標を次のように定めています。

- ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができ